

誰もが活躍できるように

就労支援



想像してみてください。
もし、自分の身体がなにかしらの障がい
を呈して今の仕事や役割ができなくな
ったとしたら・・・。

きつと喪失感を味わい生きる自信が
なくなるのではないのでしょうか。病気に
なるとまずはリハビリを頑張つて生活
動作を獲得するまでが第一段階と思
います。しかし、生きていく中で役割や
社会参加は人生の質を上げるために必
要になってきます。それが、第二段階の
就労支援だと考えます。人の話くらぶ佐
智では就労支援にも力を入れていま
す。本人の身体機能の向上を図りながら面
談を行い本人がやりたいこと、前向きに
なれることを一緒に探していきます。

幸い市内にはコルディアール農園と
いう障がい者雇用支援サービス事業
があります。水耕栽培を中心に障が
い者の雇用を促進しています。現在
佐智利用者の一名は就職し、二名は
就職に向けて動いています。見学や面
談の際には当スタッフも同行し、動
作の確認や本人が不安なところを把
握し佐智で訓練を行っていきます。
今後もしも利用者様の身体機能の向上
はもちろんですが社会の中で活躍で
き、主役になれるようにあらゆる支
援を行って参りたいと思います。
(ST 高橋奈々)

褥瘡の在宅ケア

褥瘡は以前は褥創と表記されていま
した。『創』は『ギズ』『瘡』は『でき
もの』を意味します。褥瘡を単なる
『ギズ』とせず瘡と表記するようにな
ったのは、病態が複雑だからです。発
生原因を取り除き基本に沿ったケアを
しないと難治化してしまい、時には生
命に影響することもあります。また、
急性期の褥瘡（発赤・紫斑・浮腫・硬
結・水疱・びらん・浅い潰瘍）は状態
が不安定でどこまで深く損傷がおよん
でいるかわからず侮れません。そのた
め損傷の程度が軽いと思ひ込み自己判
断で治療の機会を遅らせないように日
頃から皮膚の状態を観察し変化を見逃
さない事が大切です。褥瘡は当事者に
は痛みを介護者には負担をもたらしま
す。在宅で介護する場合、マンパワー
も限られていて体位交換を頻回に行う
事も難しいと思われます。介護する家
族が日常的に褥瘡予防ができるよう
に、正しい知識を身につけましよう。

褥瘡予防は原因は、①同じ姿勢での
長時間の圧迫、②皮膚への摩擦、③湿っ
たり汚れたりした不衛生な皮膚の状態、
④全身の健康状態の低下などです。ま
た、衣服やシーツのしわや縫い目が当
たることによっても発生します。一番
できやすい部位は仰臥位では仙骨部・
座位では尾骨部です。予防するにはこ
のような好発部位に長時間圧迫がかか
らないように、除圧したり、定時的に
体位変換をすることが大切です。例え
ば、ベッドに横になつて居る時は、寝
ている姿勢を変えることで圧力がかか
る部分に変化し同じ部位への長時間の
圧迫を防ぐ事ができます。また、体圧
分散マットやクッションを活用すると
体位変換の頻度を減らせます。身体の
清潔保持も重要な予防のひとつです。
失禁や汗などによる湿気は褥創が發生
しやすくなる原因となります。その
他、日頃よりしっかり食事を摂って栄
養状態を維持する事も重要です。

万が一褥瘡が発生してしまつたら、まず
何が原因なのか考えてみましょう。それ
から、医師の診察を受け専門家の指導の
下にケアしていきます。

【佐智の利用者の紹介】

80代の女性の方で週3回佐智を利用
されています。○カ月前に左仙骨部に紅
斑がみられ徐々に浅い潰瘍になつていき
ました。就寝時間や就寝中の体位、車椅子
乗車時の姿勢について介護者に確認し
たところ、寝返りは困難であり、夜は同
じ姿勢で寝ており、長時間の圧迫が一番
の原因であると思われました。褥瘡用マ
ットはすでに貸与されているので、新た
に体位変換用クッションと車椅子用クッ
ションを借りて、ベッドでの体位変換も
適宜行つていただきました。また、医師
の指示の下、油脂性基材軟膏(創面保護
目的)とポリウレタンフィルム(摩擦やズ
レ防止・湿潤環境を保ち上皮再生)を貼
り、佐智ご利用時は感染の兆候がないか
細かく観察しました。また、利用時には
定時的に起立したりなど同じ部位の長時
間圧迫を防ぐとともに、車椅子乗車時は
衣類のしわやポジションにも配慮し
ました。その結果、2カ月で感染するこ
となく治癒することができました。褥瘡
は治療より予防する事が大切ですが、早
期に見えれば、関わる人たちのチーム
ワークで治癒させることも可能です。
(看護師 牧野八千代)

集団訓練の工夫

人の話くらぶ佐智は、言語聴覚士によ
るリハビリに注目されがちですが、私
達介護職も理学療法士の指導の下、身
体機能低下を防ぐべく、日々試行錯誤
しながら業務にあたつております。
集団訓練を実施する際に心がけて
いる事は、定期的にプログラムを変更
する事と雰囲気明るくする笑いを生
み出す体操を織り交ぜながら実施する
事です。
新たなプログラムを実施する事で、利

笑顔をあきらめない!

人の話くらぶ佐智では、理学療法士によ
る手足の麻痺に対するリハビリや日常生
活動作の再獲得を図るためのリハビリな
ども行っています。

ある利用者の方は、利用当初より右の手
足に麻痺がみられ、動かしづらさを訴え
られておりました。右手を使用する作
業課題(左写真)を行つていますが、最
初は作業終了までに4分以上の時間を要
していました。リハビリを行ううちに
徐々に右手の巧緻性が向上し、1年後の
現在では作業時間は1分を切るまでに右
手の機能回復が認められています(右下
グラフ)。さらに、右手の機能回復がみ
られたことで食事も右手を使って摂れるよ
うになりました。

理学療法士として
今後利用者の方
々一人一人の思い、
目標に少しでも近
づけるような支援
を行っていきたく
と思ひます。

(理学療法士 吉田圭佑)



用者の方々は最初こそ戸惑い、否定的に
なりがちですが、根気強く説明と繰り返し
す事で、最初は出来なかつた動きも少
ずつですが、おこなえる様になつていき
ます。今現在、私を取り組んでいる事は
転倒を予防するのに重要な、“足の指”
についてです。立位や歩行時によるけた
り、つまずいたりした時、足の指の力を
うまく働かせ、グッと踏ん張ることで転
倒を予防することができます。足の
指が、曲げ伸ばしでき、よるめいたら踏
ん張り、歩く時はしっかりと地面を蹴る、
など、うまく使える状態にしておくこと
を目標に訓練を行っています。継続した
トレーニングを行い自宅でのトレーニ



お化粧品で綺麗に!

数人の女性を対象に『お化粧品教室』を行いま
した。
ファンデーション、眉ずみ、口紅等、化粧品
を目の前に並べると、自ら手に取りお化粧
をされる方、スタッフから化粧をしても
らう方、お返しにとスタッフ
に化粧をして下さる方、皆さん
の目がキラキラと輝いていま
した。いつも以上に素敵な女性
になられていました。

(介護士 草留洋子)



ングに組み入れて行ける
ように支援を継続して
いきます。
(介護士 鶴田千秋)



佐智だより NO.11(令和2年9月20日)
医療法人社団三友会 人の話くらぶ佐智
Tel:0985-89-2772 Fax:0985-89-2773
(所在地)
〒880-0024 宮崎市祇園2丁目17番地1